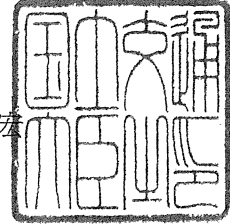


認 定 書

国住指第 261 号
平成 25 年 6 月 10 日

吉野石膏株式会社
取締役社長 須藤 永一郎 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行規則第 8 条の 3 の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
TBFC-0127
2. 認定をした構造方法等の名称
厚 12.5mm 普通硬質せっこうボード／ねじ PS3841MW／外周部@100mm、中通り@200mm／枠組壁工法耐力壁
3. 認定をした構造方法等の内容
2.1 の倍率を有する耐力壁と同等以上の耐力を有する耐力壁
別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造の概要

(1) 面材の概要

a) 面材の名称及び規格

名 称：普通硬質せっこうボード

規 格：JIS A 6901：2009（せっこうボード製品）

種類の記号：GB-R-H

b) 寸法

	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)
寸法	12.5	910	1820, 2420, 2730, 3030
		1000	1820, 2420, 2730, 3030
許容差	±0.5	-3, 0	0, +3

c) 側面加工形状

ベベルエッジ又はスクエアエッジ

d) 品質の基準

性 能：

含水率 (%)	曲げ破壊荷重 (N)		単位面積当たりの質量 (kg/m ²)
	長さ方向	幅方向	
3 以下	700 以上	250 以上	12.5～18.1

外 観：せっこうボードの両面及び側面には、使用上有害な欠け、割れ、汚れ、きずなどがあってはならない。

(2) 枠組材の仕様概要

①枠組材の品質は、構造部材の種類に応じ、平成 13 年国土交通省告示 1540 号第 2 第一号の規定に適合するものとする。下枠、たて枠及び上枠の寸法は、平成 13 年国土交通省告示 1541 号第 1 第四号の規定による。受材の寸法は、枠組壁工法構造用製材の日本農林規格(平成 22 年農林水産省告示第 1035 号)に規定する寸法形式 204 以上とする。

②たて枠相互の間隔(たて枠芯)は、455mm 以上 500mm 以下とする。

③耐力壁の高さ(上枠上端と下枠下端との距離)について、縦継ぎ張りの場合は、2100mm 以上 3180mm 以下とし、1 枚張りの場合は、1820mm 以上 2730mm 以下とする。

④受材を設ける場合、受材は下枠下端から 1820mm の位置(受材芯)に取り付ける。

(3) 接合具の仕様

a) 名 称：PS3841MW (φ3.8 mm×41 mm)

b) 表面処理：塩水噴霧試験(JIS Z 2371:2000) 240 時間において赤錆が発生しない表面処理(デイスゴラニュー処理、デイスゴ処理、デュラルコート、ジオメット処理又は電気亜鉛めっき Ep-Fe/Zn8/CM2C(JIS H 8610:1999、JIS H 8625:1993))を行う。

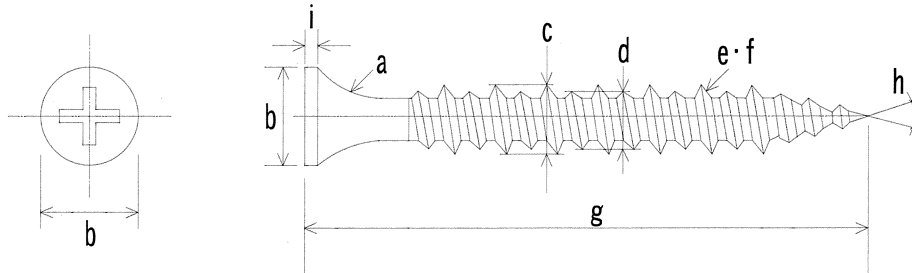
c) 連結方法：テープ連結

d) 対象となるねじの識別方法：面材とセットで出荷。

ねじの形状、寸法及び材質を図1に示す。

(4) その他の仕様
特になし。

(5) 接合具図



PS3841MW (φ3.8 mm×41 mm)						
a. 頭部形状	トランペット (ラッパ)		i. 頭厚	0.7±0.2		
b. 頭部径 (mm)	8.2±0.25		胴部径 (mm)	2.35±0.15		
c. 高い山径 (mm)	3.8±0.15		ねじ山角度	50° ~60°		
d. 低い山径 (mm)	3.2±0.15		ねじ切り部長さ (mm)	35.2		
e. ねじ山定数	2条ハイロー		十字穴深さ (mm)	2.85~3.25		
f. ねじ山数 (inch)	18山		十字サイズ	JIS B 1012 : 1985 H形2		
g. 全長 (mm)	41±1.2					
h. 先端形状	尖り先 20° ±5°					
熱処理	表面硬さ	600HV~750HV (JIS Z 2244 : 2009 による。)				
	心部硬さ	340HV5~450HV5 (JIS Z 2244 : 2009 による。)				
	浸炭硬化層深さ	0.08~0.23mm (JIS B 1055 : 1995 による。)				
ねじり強さ	3.0N・m 以上 (JIS B 1055 : 1995 による。)					
材質	SAE1018					
	化学成分 (%)					
	C	Si	Mn	P	S	Al
	0.15~ 0.20	—	0.60~ 0.90	0.030 以下	0.050 以下	—

図1 ねじの形状・寸法及び材質 (寸法単位 : mm)

2. 耐力壁の適用範囲

- (1) 普通硬質せっこうボード (GB-R-H) を対象となるねじで留め付けた耐力壁の適用範囲は、平成 13 年国土交通省告示第 1540 号及び第 1541 号に準拠した枠組壁工法を用いた建築物とする。
- (2) 普通硬質せっこうボード (GB-R-H) の用途は、枠組壁工法を用いた建築物の屋内に面する部分で、かつ、常時湿潤状態となるおそれのない部分とする。
- (3) 平成 13 年国土交通省告示第 1541 号第 1 第 5 号表 1-2 に掲げる壁若しくは筋かいを併用する場合は、倍率 5 を限度としてそれぞれの倍率を加算できるものとする。

3. 耐力壁の施工仕様の概要

(1) 枠組材

- ① 枠組材相互の緊結方法は、平成 13 年国土交通省告示第 1540 号第 5 第十五号の規定に基づく。
- ② たて枠相互の間隔 (たて枠芯) は、455mm 以上 500mm 以下とする。
- ③ 耐力壁の高さ (上枠上端と下枠下端との距離) について、縦継ぎ張りの場合は、2100mm 以上 3180mm 以下とし、1 枚張りの場合は、1820mm 以上 2730mm 以下とする。
- ④ 受材を設ける場合、受材は下枠下端から 1820mm の位置 (受材芯) に取り付ける。

(2) 面材の割付

面材は、下枠と上枠の間に受材を設けて 2 枚の版で縦継ぎ張りとするか、または下枠から上枠まで 1 枚の版で縦張りとする。ただし、2 枚の板で縦継ぎ張りとする場合、下側の面材長さは 1820mm とし、上側の面材の最小長さは 280mm とする。

(3) 面材の留め付け

- ① 面材は、ねじ PS3841MW を用いて、面材の外周部ではねじ相互の間隔を 100mm 以下で、また面材の中通りの部分ではねじ相互の間隔を 200mm 以下で枠材に留め付ける。
- ② ねじが有効に作用するように、面材の端部とねじとの間隔 (へりあき距離) は、たて枠及び受材では 10mm (許容差 ± 2 mm)、上枠及び下枠では見つけ幅の $1/2$ (19 mm) (許容差 ± 5 mm) とする。
- ③ 面材の外周部及び中通りの部分におけるねじ本数について、面材の長手方向及び短手方向の辺長 (H、L) からへりあき距離 (H1+H2、L1+L2) を減じた長さ (H- (H1+H2)、L- (L1+L2)) を算出し、その長さを各部のねじ間隔 (P、Q) で除する。外周部のねじ本数はその値の小数第一位を切り上げて 1 を加えた値とし、中通りの部分のねじ本数はその値の小数第一位を切り上げて 1 を減じた値とする。なお、図 2 に示す通り、面材四隅のねじは長手・短手両方向のねじ本数として数えることとするが、中通りの部分と外周部のねじを結ぶ直線上のねじは、中通りの部分のねじ本数として数えないものとする。

ここで、Lは910mmから1000mmのいずれかの値、Hは耐力壁の施工仕様に応じた下側もしくは上側の面材の長さの値、H1もしくはH2については、上枠及び下枠部では19mm、受材部では10mm、L1及びL2は10mm、Pは100mm、Qは200mmとする。

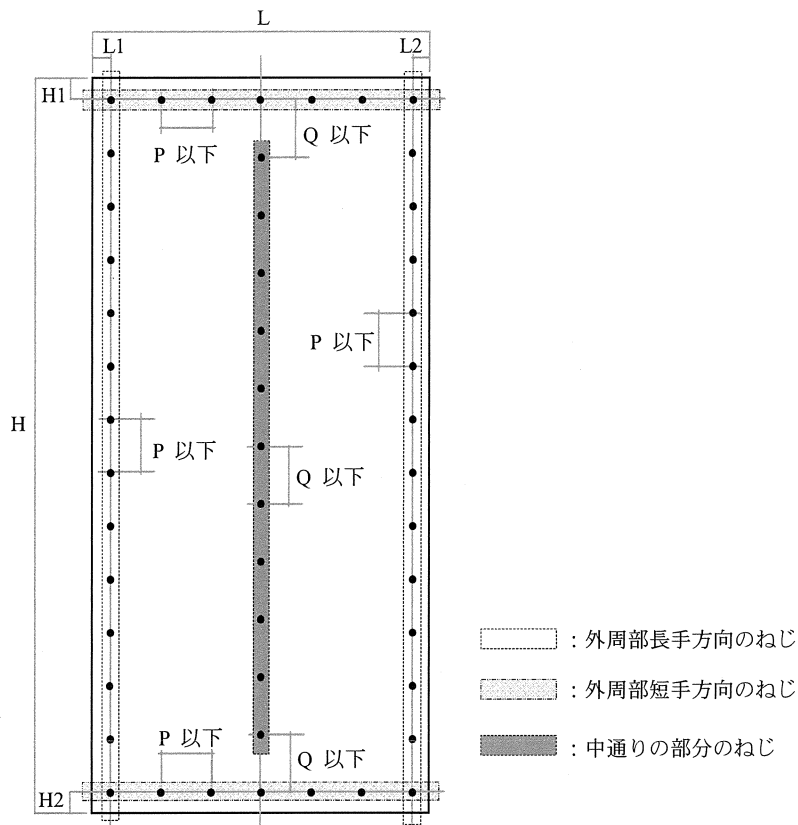
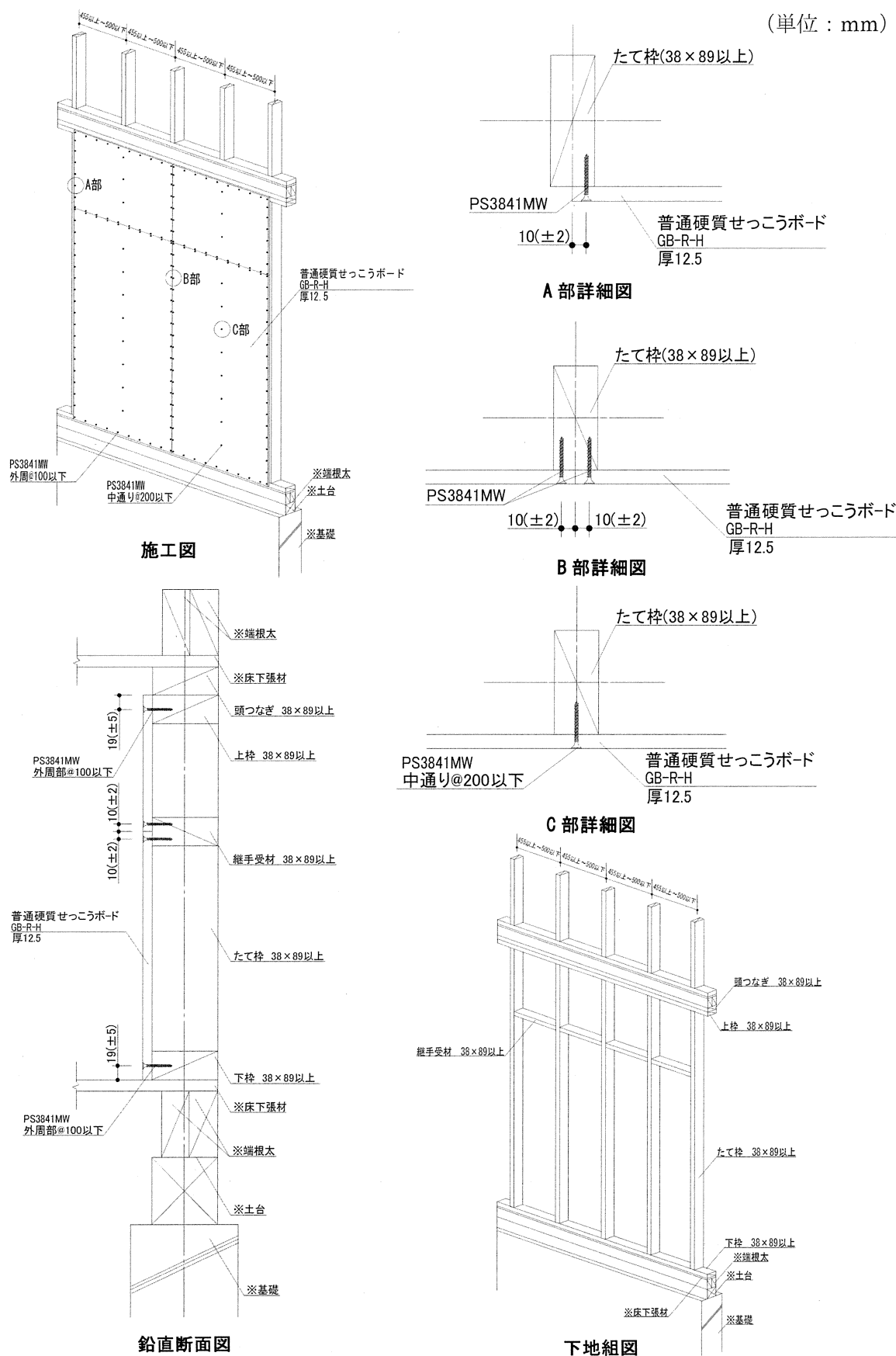


図2 各部のねじ本数

(4) その他の仕様
特になし。

(5) 施工図
施工図を図3.1～図3.4に示す。

(単位：mm)



※ 適用範囲外である。

図 3.1 施工詳細図：縦継ぎ張りの場合 (寸法単位：mm)

(単位：mm)

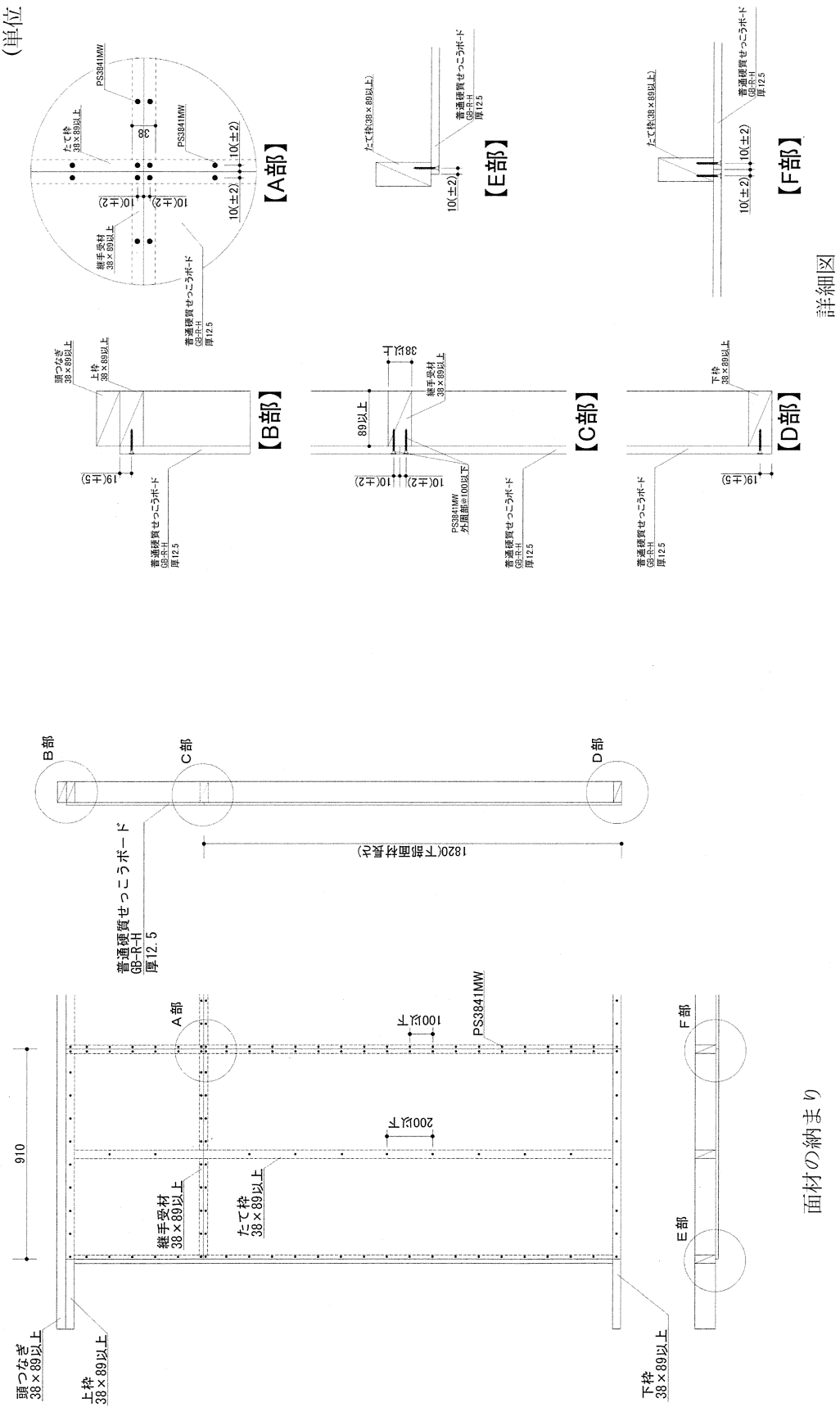
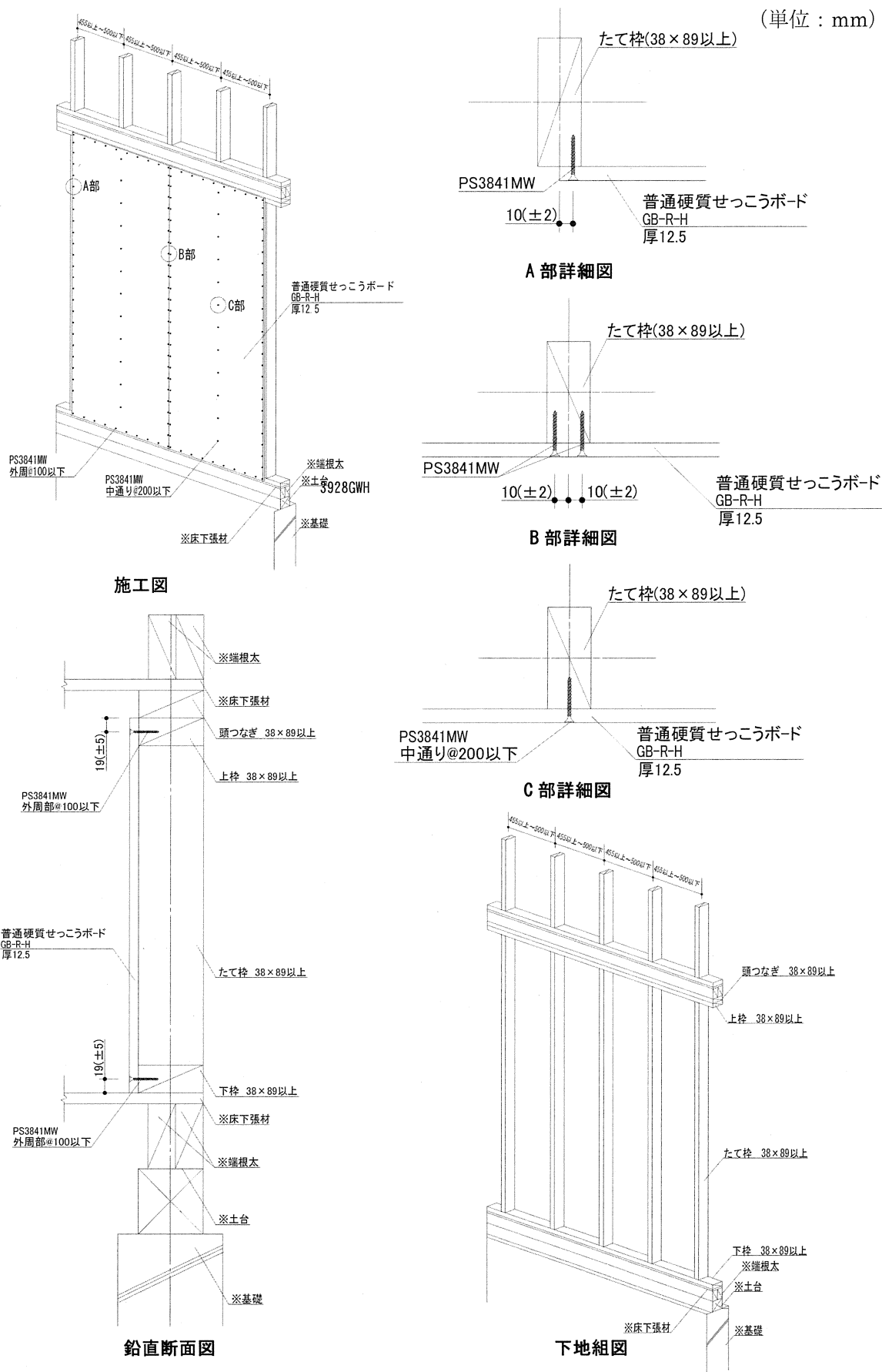


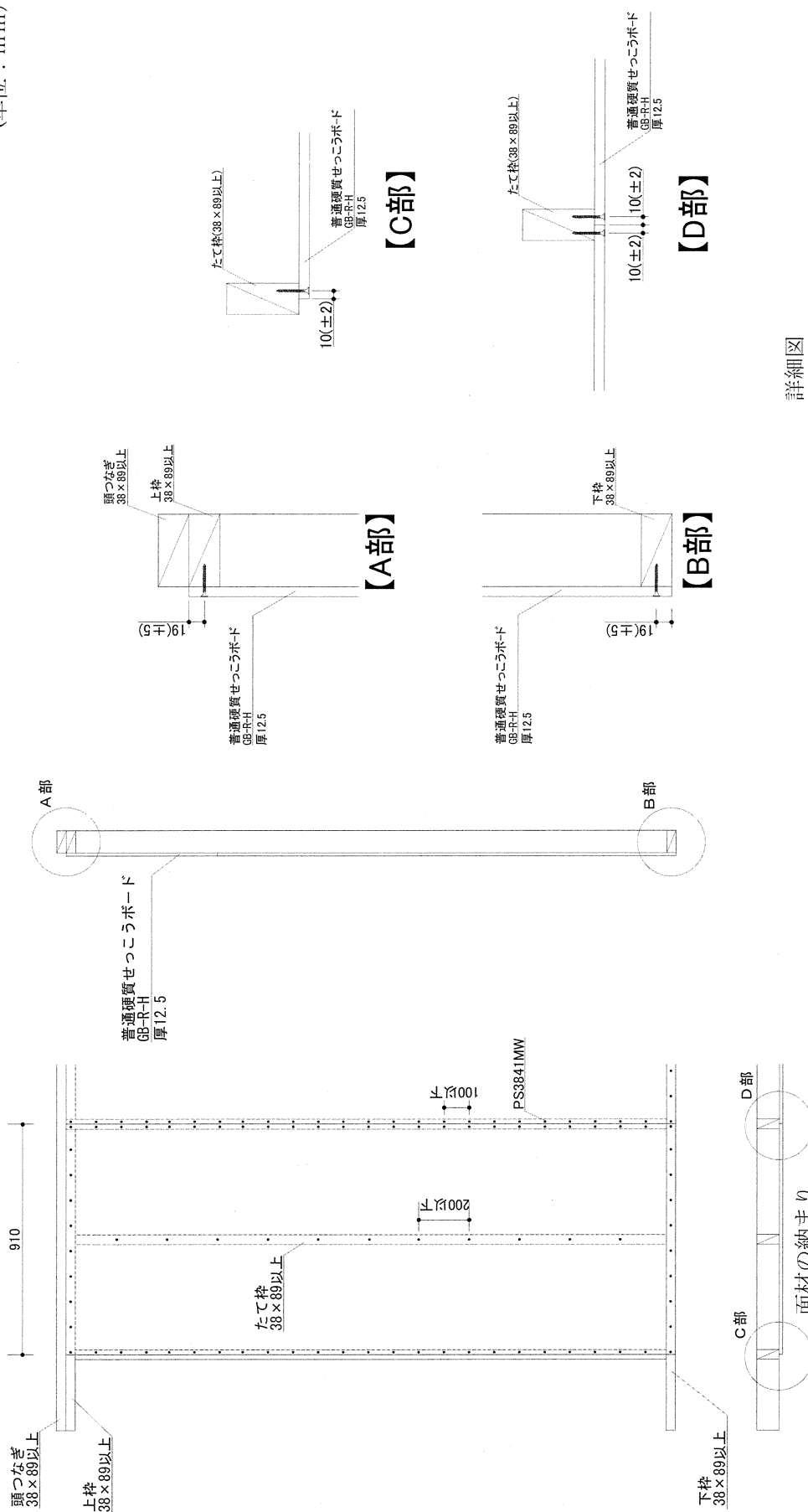
図 3.2 施工図：縦継ぎ張りの場合 (寸法単位：mm)



※ 適用範囲外である。

図 3.3 施工詳細図 : 1 枚張りの場合 (寸法単位 : mm)

(単位 : mm)



詳細図

図 3.4 施工図 : 1 枚張りの場合 (寸法単位 : mm)